



天草×キリスト教 この島々が語るもの

1566年、日本の西端に浮かぶ天草の島々にキリスト教は「伝来」しました。

天草の人々にとって、その教えは心の拠りどころとなり、瞬く間に広がっていき、キリスト教は「繁栄」していきます。しかし、時代の波は過酷でした。自由と平等、そして愛の教えを信じたはずの人々は、幕府の厳しい「禁教」下で「潜伏」を余儀なくされます。長い禁制を経て、カトリックに「復活」しはじめたのは、禁教を掲げた高札が撤去された1873年以降のことでした。

天草地方の教会堂や史跡は、250年以上もの困難に耐えた「潜伏キリシタン」のひたむきな愛と信仰を象徴するものです。

弾圧に耐え切れず、仏教や神道に帰依する者もいる一方で、「水方」と呼ばれる指導者のもと、神社や隠し部屋で「オラシヨ」を唱える等、この地独自の方法でひそかに信仰を継承した人々。秘蔵されたアワビや鏡、神像といった数多くの信心具は、禁教下の祈りのかたちを物語ります。

禁教が解かれ、カトリック教徒として復帰する人も多くなか、親子へと受け継がれた信仰を続ける「かくれキリシタン」もいました。今富地区に伝わる「幸木飾り」や「白飾り」と呼ばれる正月飾りは「かくれキリシタン」の名残を今に伝える風習です。

また、キリスト教とともに伝来した南蛮文化は、天草に大きな変化をもたらしました。「コレジヨ(神学校)」の設立や「グーテンベルグ印刷機(金属活字活版機)」によって学問が広まっていき、先進的で独自の文化が開いたのです。

伝来から今日まで450年。この地にとってキリスト教がもたらした文化や産物は、特別な遺産ではなく、繰り返す地域の日常そのものなのです。

目次 CONTENTS

イントロダクション……………	1
鶴田一郎氏インタビュー……………	3
天草のキリスト教の歴史	
第一章「伝来期」……………	5
第二章「繁栄期」……………	9
第三章「禁教期」……………	13
第四章「潜伏期」……………	17
第五章「復活期」……………	21
世界遺産登録について……………	25
キリスト教の歴史・年表……………	27
歴史探訪マップ	
天草全域・モデルコース紹介……………	33
大矢野島エリア紹介……………	35
上島エリア紹介……………	39
下島東側エリア紹介……………	43
下島西側エリア紹介……………	47
崎津・今富エリア紹介……………	51
交通アクセス情報……………	53



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録をPRするシンボルマーク。
「天草の崎津集落」は、この遺産群の構成資産の一つとなっています。

オラシオ デ アマクサ Oração de Amakusa

脈々と受け継がれる「祈りの地」。「祈りの歴史」。